

ふるさとを愛し、地域と共に歩む子どもをめざして

福井市岡保小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	1回
地域及び家庭への学校公開	16回

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	149人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	45人
登下校支援ボランティア	196人
その他 ()	人

(3) 特色ある活動

テーマ 「ふるさと教育」



【稲刈りをする児童】

①稲作体験田『わらんべ田』、学校農園『あいじょ畑』を活用した栽培及び食育

地域の方や保護者の協力で昭和54年から続いている『わらんべ田』で、水稻の栽培を行っている。収穫した米は、各学年の調理実習や「ふるさとまつり」で農協婦人部のカレーライスで使われる他、支援米としてマリ共和国にも送られている。また、学校農園『あいじょう畑』では、地域のゲストティーチャーの協力で、様々な作物を栽培し、家庭科や総合学習のみそ作りなどで使われている。

②地域の『ふるさとまつり』へ参加

公民館祭りとPTAのバザーとを共催している地区の行事である。児童は地区の一員として『～これまでの岡保 これからのOKABO～』をテーマに作文を書き、各学年2名の代表者が発表した。

また、大東中学校の吹奏楽部や合唱部が来校し、幼稚園も参加して、幼小中の交流を深めている。「あたたかい気持ちを交換できる人」づくりをめざし地域と連携して「あたたかノート」に取り組み、『ふるさとまつり』で「あたたかバッチ」の表彰や、ノートとバッチと交換するコーナーが設けられている。



【作文を発表する児童代表】



【こんにゃくを作る児童】

③農協婦人部の方々を招いてのこんにゃく作り、みそ作り体験

本校では30年以上前からの『わらんべ田』での米栽培を通して、農協とのつながりは深い。農協にはみそ工場が隣接している。(かつてはこんにゃくも製造していた)そこで、農協婦人部の方を招いて3年生がこんにゃく作りとみそ作りの体験学習を行っている。現在、家庭でみそやこんにゃくを作ることは少なくなってきたので、児童にとっては貴重な体験ができた。

みそは次年度受け取り学校給食や家庭科、総合的な学習などで利用される。

(1) 成果について

教育ウィーク、自由参観日、ふるさと祭りなどを通じた授業公開や学校だよりを通して、学校の教育活動と子どもたちの様子を保護者や地域の人たちに広く知ってもらうように努めた。また、『ふるさと祭』での作文発表では、ふるさと岡保を愛する気持ちを地域の人々にも伝えることができた。これらのことから、学校の教育活動にも多くのご協力をいただくことができた。地域のボランティア、子ども安心安全ネットワークによる見守り隊など地域の方々の連携協力によって、子どもたちの日々の安全で安心な教育活動を営むことができた。

(2) 課題について

豊かな人間性を育むには、子どもたちが地域の自然や伝承・文化などに愛着と誇りを持って、生き生きと活動をする機会や場の設定を図ることが必要である。そのため学校と地域は、家庭や地域と共に子どもを育てる視点に立ち、地域の行事に積極的に参加できるよう支援する必要がある。また、大東中学校区において共通して取り組む重点事項の実践を積極的に進め、その成果を地域に発信していきたい。